

## 2008年度（平成20年度）の北九州市温室効果ガス排出量（速報値）

<概況>

- 2008年度の温室効果ガスの総排出量（速報値）は、1,632万トン（CO2換算）。
- 前年度（2007年度）の総排出量と比べると、金融危機の影響による年度後半の急激な景気後退に伴う、産業部門をはじめとする各部門のエネルギー需要の減少などにより、6.3%（109万トン）の減少。
- 1990年度の総排出量と比べると、業務部門、運輸部門などからの排出量が増加したことなどにより、総排出量としては2.9%（46万トン）の増加。

### 北九州市の温室効果ガス排出量（部門別）

単位：千トン・CO2

区分	1990年度 (平成2) 京都議定書 基準年	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	前年度比 (平成19)	1990年度比 (平成2)	
二酸化炭素	家庭(暮らし)部門	943	1,039	939	968	960	△0.8%	+1.8%
	業務部門	669	1,186	1,252	1,362	1,311	△3.7%	+96.0%
	運輸部門	1,419	1,751	1,772	1,751	1,721	△1.7%	+21.3%
	産業部門	9,808	10,717	10,788	11,481	10,591	△7.8%	+8.0%
	エネルギー転換部門	347	246	243	245	241	△1.6%	△30.5%
	工業プロセス	1,757	695	983	1,010	908	△10.1%	△48.3%
	廃棄物	252	542	545	417	410	△1.7%	+62.7%
二酸化炭素合計	15,195	16,176	16,522	17,234	16,142	△6.3%	+6.2%	
メタン	23	21	21	20	20	0.0%	△13.0%	
一酸化二窒素	44	41	41	39	38	△2.6%	△13.6%	
フロンガス等	598	98	106	111	115	3.6%	△80.8%	
温室効果ガス合計	15,860	16,336	16,690	17,404	16,315	△6.3%	+2.9%	

### 参考：全国の温室効果ガス排出量（部門別）

単位：千トン・CO2

区分	1990年度 (平成2) 京都議定書 基準年	2005年度 (平成17)	2006年度 (平成18)	2007年度 (平成19)	2008年度 (平成20)	前年度比 (平成19)	1990年度比 (平成2)	
二酸化炭素	家庭(暮らし)部門	127,000	174,000	166,000	180,000	171,000	△5.0%	+34.6%
	業務部門	164,000	236,000	235,000	243,000	234,000	△3.7%	+42.7%
	運輸部門	217,000	254,000	251,000	245,000	235,000	△4.1%	+8.3%
	産業部門	482,000	459,000	457,000	467,000	419,000	△10.3%	△13.1%
	エネルギー転換部門	67,900	79,300	77,000	82,900	79,100	△4.6%	+16.5%
	工業プロセス	62,300	50,000	50,100	49,300	45,700	△7.3%	△26.6%
	廃棄物	22,700	29,600	27,800	28,400	29,000	+2.1%	+27.8%
二酸化炭素合計	1,144,100	1,282,300	1,263,100	1,296,000	1,213,300	△6.4%	+6.0%	
メタン	33,400	22,700	22,300	21,800	21,200	△2.8%	△36.5%	
一酸化二窒素	32,600	24,000	24,000	22,700	22,400	△1.3%	△31.3%	
フロンガス等	51,100	22,400	23,900	24,100	23,700	△1.7%	△53.6%	
温室効果ガス合計	1,261,300	1,351,300	1,333,300	1,364,900	1,280,600	△6.2%	+1.5%	

※四捨五入により合計が一致しない場合がある。

※平成20年度は速報値

